

JT-Q772

トランザクション機能情報要素定義

[Transaction Capabilities Information Element Definitions]

第2版

1997年4月23日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、（社）情報通信技術委員会が著作権を保有しています。

内容の一部又は全部を（社）情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

<参考>

1．国際勧告等との関連

本標準は、1996年2月に開催されたITU-T SG11会合における勧告案Q.772の審議結果に準拠している。

2．上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1 オプション選択項目

なし。

2.2 ナショナルマター項目

なし。

2.3 その他

(1) 本標準は、上記ITU-T勧告に対し、先行している項目はない。

(2) 本標準は、上記ITU-T勧告に対し、追加記述している項目はない。

(3) 本標準は、上記ITU-T勧告に対し、記述を削除している項目はない。

2.4 原勧告との章立て構成比較表

上記国際勧告との章立て構成の相違はない。

3．改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第1版	1994年 4月27日	制定
第2版	1997年 4月23日	ITU-Tによる検討の進展に伴う改版

4．工業所有権

本標準に関わる「工業所有権の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページでご覧になれます。

5．その他

なし。

目 次

1. 概要	1
2. トランザクション部 (Transaction portion)	1
2.1 メッセージ種別 (Message type)	1
2.1.1 片方向 (Unidirectional)	1
2.1.2 開始 (Begin)	1
2.1.3 終了 (End)	1
2.1.4 継続 (Continue)	1
2.1.5 アボート (Abort)	1
2.2 トランザクション I D (Transaction IDs)	1
2.2.1 発トランザクション I D (Originating Transaction ID)	1
2.2.2 着トランザクション I D (Destination Transaction ID)	2
2.3 P-アボート理由 (P-Abort Cause)	2
2.3.1 認識不能メッセージ種別 (Unrecognized Message type)	2
2.3.2 認識不能トランザクション I D (Unrecognized Transaction ID)	2
2.3.3 フォーマット誤りトランザクション部 (Badly Formatted Transaction Portion)	2
2.3.4 不正トランザクション部 (Incorrect Transaction Portion)	2
2.3.5 リソース限界 (Resource limitation)	2
2.4 ダイアログ部 (Dialogue Portion)	4
2.5 コンポーネント部 (Component Portion)	4
3. コンポーネント部 (Component portion)	4
3.1 コンポーネント種別 (Component Type)	4
3.1.1 起動 (Invoke)	4
3.1.2 結果応答 (途中) (Return Result (Not Last))	4
3.1.3 結果応答 (最終) (Return Result (Last))	5
3.1.4 エラー応答 (Return Error)	5
3.1.5 拒否 (Reject)	5
3.2 起動 I D (Invoke ID)	5
3.3 関連 I D (Linked ID)	5
3.4 オペレーションコード (Operation Code)	5
3.5 パラメータ (Parameter)	5
3.6 エラーコード (Error Code)	5
3.7 問題コード (Problem Code)	6
3.7.1 一般問題 (General Problem)	6
3.7.2 起動問題 (Invoke Problem)	8
3.7.3 結果応答問題 (Return Result Problem)	8
3.7.4 エラー応答問題 (Return Error Problem)	9
4. ダイアログ部 (Dialogue portion)	9
4.1 ダイアログ制御 A P D U (Dialogue Control APDUs)	9
4.1.1 ダイアログ要求 A P D U (Dialogue Request APDU) [A A R Q A P D U]	10
4.1.2 ダイアログ応答 A P D U (Dialogue Response APDU) [A A R E A P D U]	10
4.1.3 ダイアログアボート A P D U (Dialogue Abort APDU) [A B R T A P D U]	10

4.1.4	片方向ダイアログ A P D U (Dialogue Uni APDU) [A U D T A P D U]	10
4.2	ダイアログ部情報要素 (Dialogue Portion Information Elements)	10
4.2.1	アプリケーションコンテキスト名 (Application Context Name).....	10
4.2.2	プロトコルバージョン (Protocol Version)	10
4.2.3	ユーザ情報 (User Information)	10
4.2.4	結果値 (Result).....	11
4.2.5	結果元診断 (Result Source Diagnostic).....	11
4.2.6	アボート元 (Abort Source)	11

1. 概要

本標準は、トランザクション機能（TC）メッセージに用いられる個々の情報要素とパラメータについて記述している。それら情報要素の符号化法とフォーマット法は、標準JT-Q 773に示されている。

各々の情報要素の意味は、一般的な用語で記述されている。

TCメッセージフォーマットは、トランザクション部、ダイアログ部とコンポーネント部の3つで構成される。コンポーネント部での情報は、個々のオペレーションとそれらの応答に関連する。トランザクション部は、トランザクションサブレイヤのためのプロトコル制御情報を含む。ダイアログ部は、アプリケーションコンテキストとオプションであるユーザ情報（すなわちコンポーネントでないデータ）に関する。

アーキテクチャのより詳細な分析は、標準JT-Q 771 図1-1/JT-Q 771と関連本文を参照。

2. トランザクション部 (Transaction portion)

TCメッセージのトランザクション部は、以下の情報要素を含むことができる。

2.1 メッセージ種別 (Message type)

5種類のメッセージが、以下のようにトランザクション部に対して定義される。

2.1.1 片方向 (Unidirectional)

本メッセージは相手TRユーザとトランザクションを確立することが必要ない時に使用される。

2.1.2 開始 (Begin)

本メッセージは相手TRユーザとトランザクションを開始するために使用される。

2.1.3 終了 (End)

本メッセージは相手TRユーザとトランザクションを終了するために使用される。

2.1.4 継続 (Continue)

本メッセージは、トランザクションを確立するためと、確立したトランザクションを継続するために、使用される。

2.1.5 アボート (Abort)

本メッセージは、トランザクションサブレイヤ（サービスプロバイダ）が検出した異常状態にあるトランザクションを終了するため、もしくは、TRユーザ（サービスユーザ）がトランザクションを解放するために、使用される。

2.2 トランザクションID (Transaction IDs)

トランザクションIDは、トランザクションを一義的に識別し、その特定トランザクションとメッセージの全内容を対応させることが、各ノードで可能となるよう、トランザクションを経由して通信する各々の2つのノードによって、独立に割り付けられる。2種類のトランザクションIDがある。

2.2.1 発トランザクションID (Originating Transaction ID)

発トランザクションIDは、メッセージ送信側ノードによって割り付けられ、送信側でトランザクションを識別するために使用される。

2.2.2 着トランザクションID (Destination Transaction ID)

着トランザクションIDは、受信側でトランザクションを識別する。

2.3 P-アボート理由 (P-Abort Cause)

これは、トランザクションサブレイヤがトランザクションをアボートする時、使用される。P-アボート理由は以下のように定義する。

2.3.1 認識不能メッセージ種別 (Unrecognized Message type)

メッセージ種別が、上記節2.1.1から節2.1.5で定義したものに該当しない。

2.3.2 認識不能トランザクションID (Unrecognized Transaction ID)

受信側で、存在しないトランザクションのトランザクションIDを受信した。

2.3.3 フォーマット誤りトランザクション部 (Badly Formatted Transaction Portion)

受信したメッセージのトランザクション部が、標準JT-Q773節4.1に概説しているITU-T勧告X.209の符号化則に一致しない。

2.3.4 不正トランザクション部 (Incorrect Transaction Portion)

受信したメッセージのトランザクション部内の要素構成が、標準JT-Q773節3.1で定義したトランザクション部の規則に一致しない。

2.3.5 リソース限界 (Resource limitation)

トランザクションを開始するための十分なリソースが使用できない。

表 2-1 / JT-Q 772 (ITU-T Q. 772)
P-アポート理由値に対応するP-アポートシナリオのマッピング例

トランザクションサブレイヤ	
P-アポート理由	理由例
<p>認識不能メッセージ種別 (シンタックスエラー)</p> <p>〔メッセージ種別タグが不明である。すなわち標準 JT-Q 773 で定義していない。〕</p>	<p>クラス、形式と値の組み合わせが、既知のタグと一致しない。</p> <p>すなわちメッセージ種別が、開始、継続、終了、片方向、アポートのいずれでもない。</p>
<p>認識不能トランザクションID</p> <p>〔トランザクションIDは受信しているが、そのトランザクションは受信しているノードでは存在しない。すなわち、認識できない(着)トランザクションIDを含む継続メッセージを受信している。〕</p>	<p>着トランザクションID未指定</p>
<p>フォーマット誤りトランザクション部 (符号化エラー)</p> <p>〔トランザクションサブレイヤが標準 JT-Q 773 節 4. 1 で定義された符号化規則と一致しないメッセージを受信した。〕</p>	<p>長さ指示値が 128 オクテットより小さいが、短形式でコード化していない。</p> <p>メッセージ種別以外の情報要素に対するタグの形式が正しくない。(例えば、形式が構造形で符号化を指定しているにもかかわらず、クラスとコードが整数を指定している。)</p> <p>長さ指示値が、メッセージの長さと一致しない。</p>
<p>不正トランザクション部 (シンタックスエラー)</p> <p>〔受信したメッセージのトランザクション部内の要素構成が、標準 JT-Q 773 節 3 で定義したトランザクションの法則と一致しない。〕</p>	<p>発/着トランザクションIDの組み合わせが、メッセージ種別と一致しない。</p> <p>コンポーネント部タグは存在するが、コンポーネントが存在しない。</p> <p>メッセージが、メッセージ種別毎に標準 JT-Q 773 で定義した全ての必須情報要素を含んでいない。</p> <p>メッセージ内の受信した情報要素の順序が、メッセージ種別に対応して定義した標準 JT-Q 773 と一致しない。</p>
<p>リソース限界</p> <p>〔TRまたはTRユーザ、あるいはその両方においてリソースが不十分である。〕</p>	<p>輻輳。</p> <p>新しいトランザクション確立要求に対して、割り当てる有効なトランザクションIDがない。</p>

2.4 ダイアログ部 (Dialogue Portion)

これは、アプリケーションコンテキストや、オプションであるユーザ情報（すなわちコンポーネントでないデータ）に関連した情報を受け渡すために使用される。

2.5 コンポーネント部 (Component Portion)

これは、コンポーネントを含む。コンポーネントの伝達がない場合、この情報要素は存在しない。

3. コンポーネント部 (Component portion)

コンポーネント部は以下の情報要素種別を含む。メッセージ内のコンポーネントは、発側ユーザから受信されたものと同じ順序で、受信側ユーザに伝達される。

3.1 コンポーネント種別 (Component Type)

TCメッセージのコンポーネント部に含むことができるものには、5種類のコンポーネントがある。ITU-T勧告X.229で定義された4つのプロトコルデータユニット(PDU)が使用される。

TC コンポーネント	X.229 PDU
起動 (Invoke)	ROIV
結果応答 (最終) (Return Result(Last))	RORS
エラー応答 (Return Error)	ROER
拒否 (Reject)	RORJ

残りのコンポーネント種別—結果応答 (途中) (Return Result (Not Last))—は、TCで、定義される。

これらのコンポーネント種別は、以下のように定義される。

3.1.1 起動 (Invoke)

起動コンポーネントは、オペレーションの実行を要求する。それは、予め他方より送られた他のオペレーション起動と関連づけることができる。この場合「関連起動」と呼ばれる。

3.1.2 結果応答 (途中) (Return Result (Not Last))

TCがコネクションレスネットワークサービスを使用する時、2つのTCユーザがユーザデータの分割/再組立を提供しないネットワークサービスを使う場合、オペレーションの結果を分割することがTCユーザにとって必要となる可能性がある。この場合、結果応答 (最終) コンポーネントで転送される最後の部分を除き、結果の各部分を転送するために、結果応答 (途中) コンポーネントが使用される。

結果応答 (途中) ファシリティは、その結果が単独の結果応答 (最終) コンポーネントに適合するには大きすぎる場合にのみ許可される。ただし、結果応答 (途中) ファシリティの使用は、オペレーションが正常終了した事を暗黙のうちに意味している。

3.1.3 結果応答（最終）（Return Result (Last)）

結果応答（最終）コンポーネントは、オペレーションの正常完了を報告する。結果応答（最終）コンポーネントは、結果の最終部分を含むことが可能である。あるいは、分割されていない結果の場合、それは全体の結果を含む。

3.1.4 エラー応答（Return Error）

エラー応答コンポーネントは、オペレーションが正常に終了していない事を報告する。

3.1.5 拒否（Reject）

拒否コンポーネントは、拒否コンポーネント以外の不正コンポーネントの受信と拒否を報告する。コンポーネントを拒否する可能性のある理由は、節 3. 7 の問題コード要素によって定義される。

3.2 起動 I D（Invoke ID）

起動 I D は、オペレーションに対する起動を一義的に識別するための参照番号として使用される。それは、起動コンポーネントや、起動に対するすべての応答（結果応答、エラー応答、拒否）に存在し、起動に関連した応答を可能にする。

3.3 関連 I D（Linked ID）

関連 I D は、ノードが関連オペレーション起動で、あるオペレーション起動に応答する場合、起動コンポーネント内にノードによって含まれる。関連 I D を受信したノードは、結果応答とエラー応答、そして拒否コンポーネントの起動 I D を使用するのと同じ方法で、関係をとる目的で使用される。

3.4 オペレーションコード（Operation Code）

オペレーションコード要素は、起動する正確なオペレーションを示し、起動コンポーネント種別に存在する。それは、結果がパラメータを含んでいれば、結果応答（最終/途中）にも存在する。

オペレーションコードは、限られた領域の中で、オペレーションをさらに識別するローカル値（すなわち整数）が付与されるのを可能とする。或いは、それは、全てのアプリケーションに対して、一義的に識別できるオペレーションを用意するグローバル値（すなわちオブジェクト識別子）、ということになる。

オペレーションやそれらのパラメータの組み合わせの定義である、実際のオペレーションコードは、関連するアプリケーションサービス要素（A S E）仕様で定義される。コンポーネントサブレイヤは、オペレーションコード値やパラメータの有無、そしてパラメータ値を、設定或いは検査しない。

3.5 パラメータ（Parameter）

パラメータ要素は、コンポーネントと共に、1つ、あるいは複数のユーザ情報要素を含む。情報要素自身は、関連する A S E 仕様で定義される。

3.6 エラーコード（Error Code）

エラーコード要素は、オペレーションが正常に完了されなかった理由を含む。それは、エラー応答コンポーネントにのみ存在する。オペレーションに対応して、エラーはローカル又はグローバルとなり得る。これらのエラーとパラメータの組み合わせは、関連する A S E 仕様で定義される。

3.7 問題コード (Problem Code)

問題コード要素は、コンポーネントの拒否理由を含む。そして、そのような要素の1つが、拒否コンポーネントに存在する。4つの問題コード要素が定義されている。

3.7.1 一般問題 (General Problem)

この要素は、コンポーネントサブレイヤに一般に適用する問題コードの1つを含み、特定のコンポーネント種別には関連しない。これらの全ては、コンポーネントサブレイヤによって生成される。以下がある。

3.7.1.1 認識不能コンポーネント (Unrecognized Component)

コンポーネント種別が、節3.1で定義したものの1つとして認識されない。

3.7.1.2 不正コンポーネント (Mistyped Component)

コンポーネントの要素構成が、標準JT-Q773節3.1に定義されたコンポーネントの構成と一致しない。

3.7.1.3 構成誤りコンポーネント (Badly Structured Component)

コンポーネントの内容が、標準JT-Q773節4.1に定義された符号化則と一致しない。

表 3-1 / JT-Q772 (ITU-T Q. 772)
 一般問題拒否種別に対応する一般問題拒否シナリオのマッピング例

コンポーネントサブレイヤ	
一般問題	理由例
認識不能コンポーネント (コンポーネント種別が、標準 JT-Q772 節 3.1 で定義したものの 1 つとして認識されない。)	コンポーネント種別タグが、起動、結果応答 (途中)、エラー応答、拒否、結果応答 (最終) のいずれとしても認識されなかった。
不正コンポーネント (コンポーネント要素構成が、標準 JT-Q773 節 3.1 で定義したコンポーネントの構成と一致しない。)	起動 ID 要素が欠けている。
	期待したオペレーションコード要素が存在しない。
	エラーコード要素なしのエラー応答コンポーネントを受信した。 コンポーネント内の受信した情報要素の順序が、標準 JT-Q773 の当該コンポーネント種別の順序と一致しない。
構成誤りコンポーネント (コンポーネントの内容が、標準 JT-Q773 節 4.1 で定義した符号化則と一致しない。)	長さ指示値が 128 オクテットより小さいが、短形式でコード化していない。

3.7.2 起動問題 (Invoke Problem)

この要素は、起動コンポーネント種別にのみ関連する問題コードの1つを含む。以下がある。

3.7.2.1 二重定義起動 I D (Duplicate Invoke ID)

この起動 I D は、すでに起動されているが完了していないオペレーションの起動 I D である。このコードは、TC ユーザによって生成される。

3.7.2.2 認識不能オペレーション (Unrecognized Operation)

オペレーションコードが、2つのTC ユーザで合意したものの1つではない。

3.7.2.3 不正パラメータ (Mistyped parameter)

起動コンポーネント内のパラメータ種別は、2つのTC ユーザで合意したものではないことを、意味する。

3.7.2.4 リソース限界 (Resource Limitation)

十分なリソースが、要求されたオペレーションを実行する為に利用できない。このコードは、TC ユーザによって生成される。

3.7.2.5 解放起動 (Initiating Release)

ダイアログが解放されようとしているため、要求されたオペレーションを、起動することができない。このコードは、TC ユーザによってのみ生成される。

3.7.2.6 認識不能関連 I D (Unrecognized linked ID)

関連 I D が、現在起動しているオペレーションと一致しない。このコードは、コンポーネントサブレイヤによってのみ生成される。

3.7.2.7 期待されない関連応答 (Linked Response Unexpected)

関連 I D によって参照されたオペレーションが、関連起動を認められたオペレーションでない。このコードは、TC ユーザによってのみ生成される。

3.7.2.8 期待されない関連先オペレーション (Unexpected Linked Operation)

関連 I D によって参照されたオペレーションは、この関連先オペレーションを認めていない。このコードは、TC ユーザによってのみ生成される。

3.7.3 結果応答問題 (Return Result Problem)

この要素は、結果応答コンポーネント種別にのみ関連する問題コードの1つを含む。以下がある。

3.7.3.1 認識不能起動 I D (Unrecognized Invoke ID)

指定された起動 I D に対応するオペレーションが実行中でない。このコードはコンポーネントサブレイヤによって生成される。

3.7.3.2 期待されない結果応答 (Return Result Unexpected)

起動されたオペレーションからの成功の報告がない。このコードは、コンポーネントサブレイヤによって生成される。

3.7.3.3 不正パラメータ (Mistyped parameter)

結果応答コンポーネントのパラメータの種別が、2つのTCユーザで合意したものではない。

3.7.4 エラー応答問題 (Return Error Problem)

この要素は、エラー応答コンポーネント種別にのみ関連する問題コードの1つを含む。以下がある。

3.7.4.1 認識不能起動ID (Unrecognized Invoke ID)

指定された起動IDに対応するオペレーションが実行中でない。このコードはコンポーネントサブレイヤによって生成される。

3.7.4.2 期待されないエラー応答 (Return Error Unexpected)

起動されたオペレーションが、失敗を報告しない。このコードは、コンポーネントサブレイヤによって生成される。

3.7.4.3 認識不能エラー (Unrecognized Error)

エラーコードが、2つのTCユーザで合意したもの1つではない。

3.7.4.4 期待されないエラー (Unexpected Error)

受信したエラーが、起動したオペレーションが報告し得るもの1つではない。このコードはTCユーザによって生成される。

3.7.4.5 不正パラメータ (Mistyped parameter)

エラー応答コンポーネントのパラメータの種別が、2つのTCユーザで合意したものではない。

4. ダイアログ部 (Dialogue portion)

ダイアログ部は、ダイアログ制御アプリケーションプロトコルデータユニット (以下APDUと略す)、或いはユーザ情報を含む。

4.1 ダイアログ制御APDU (Dialogue Control APDUs)

個々のダイアログ制御APDUは、ITU-T勧告X.227で定義したOSIアソシエーション制御サービス要素 (ACSE) APDUに合わせて定義した。

ダイアログ制御APDUとOSI ACSEのAPDUとの間のマッピングは、次の表のように表される。

ダイアログ制御APDU	ACSE APDU
ダイアログ要求	AARQ
ダイアログ応答	AARE
ダイアログ アボート	ABRT
片方向ダイアログ	AUDT

4.1.1 ダイアログ要求 A P D U (Dialogue Request APDU) [A A R Q A P D U]

ダイアログ要求 (AARQ) APDUは、アプリケーションコンテキスト名と、オプションとしてユーザ情報 (すなわちコンポーネントでないデータ) を相手TCユーザに伝達する為に、トランザクション開始時、起動しているTCユーザによって使用される。

4.1.2 ダイアログ応答 A P D U (Dialogue Response APDU) [A A R E A P D U]

ダイアログ応答 (AARE) APDUは、ダイアログが受け入れられたかどうかを、発TCユーザに通知する為に、返答しているTCユーザによって最初の逆方向のメッセージ上で使用される。

4.1.3 ダイアログアボート A P D U (Dialogue Abort APDU) [A B R T A P D U]

ダイアログアボート (ABRT) APDUは、異常 (形式不良等の) ダイアログ部APDUを受信したことを相手に通知する為に、コンポーネントサブレイヤによって使用される。それは又、異常状態によりダイアログ部を終了するため、TCユーザによって使用される。

4.1.4 片方向ダイアログ A P D U (Dialogue Uni APDU) [A U D T A P D U]

片方向ダイアログ (AUDT) APDUは、ダイアログを2つのTCユーザ間で確立する必要の無い状況において、アプリケーションコンテキスト名と、オプションとしてユーザ情報 (いわゆるコンポーネントでないデータ) を伝達する為に使用される。

4.2 ダイアログ部情報要素 (Dialogue Portion Information Elements)

4.2.1 アプリケーションコンテキスト名 (Application Context Name)

「オブジェクト識別子」形式の、このパラメータは、TCユーザアプリケーションサービスエレメント (ASE) の明確に定義されたセットや、関連するオプション情報、その他通信中の2つのTCユーザのインターワーキングにとって必要な情報を指し示す。

4.2.2 プロトコルバージョン (Protocol Version)

プロトコルバージョン情報要素は、サポートされるダイアログ部のバージョンを指定する。それは一連のビット列で表され、個々のビット位置は、サポートされるダイアログ部のバージョンを表す。0ビット目 (ビットH) が1のとき、バージョン1を表し、1ビット目 (ビットG) が1のとき、バージョン2を表す。また、ビット列の中で1に設定された最終のビットが、最優先に選択するバージョンを表す。プロトコルバージョンパラメータがない時は、暗黙的に「バージョン1」を意味する。

4.2.3 ユーザ情報 (User Information)

ユーザ情報は、2つのTCユーザ間で交換される情報に相当する。ユーザ情報の意味は、そのユーザ情報を伴っているか、或いはそのユーザ情報を使用しているアプリケーションコンテキスト名に依存する。例えば、このパラメータは、ASEの「バージョン番号」を提供することによって、アプリケーションコンテキストを一層明確にされたものにしたたり、ASE上の「イニシャライゼーション」情報その他を伝達するために使用することができる。その内容と利用方法は、標準対象外とする。

4.2.4 結果値 (Result)

このパラメータは、ダイアログを確立するための要求の結果を、発TCユーザに提供するため、コンポーネントサブレイヤにより設定される。その値は、ダイアログ要求に対する応答において、応答するTCユーザにより使用されたダイアログ関連プリミティブ（とそれに同乗しているパラメータ）を基に設定される。「受諾」か「拒否（永続的）」の値を設定する。

4.2.5 結果元診断 (Result Source Diagnostic)

このパラメータは、結果パラメータの生成元を示し、幾つかの診断情報により、その結果を分析する。このパラメータの値は、コンポーネントサブレイヤにより設定され、「ダイアログサービスユーザ」、或いは「ダイアログサービスプロバイダ」の値を設定する。もし、結果パラメータが「受諾」の値を設定すれば、このパラメータの値は「ダイアログサービスユーザ」に設定される。

「ダイアログサービスユーザ」は、「ヌル(Null)」或いは「理由指定なし」（診断されなかった場合）もしくは「未サポートアプリケーションコンテキスト名」（アプリケーションコンテキストが含まれないためにダイアログが拒否される場合）の値を含む診断結果によって、結果を分析することができる。「ダイアログサービスプロバイダ」は、「ヌル(Null)」或いは「理由指定なし」（診断されなかった場合）もしくは「共通ダイアログ部なし」（相手TCのダイアログ部が異なっている時で、本標準の将来バージョンをサポートしている場合）の値を含む診断結果によって、結果を分析することができる。

4.2.6 アボート元 (Abort Source)

このパラメータは、ダイアログの異常解放が、TCユーザの要求によるものか、或いはダイアログ部により起動されたものかを示し、それぞれのパラメータ値は「ダイアログサービスユーザ」と「ダイアログサービスプロバイダ」に対応する。

第2版執筆作成協力者（1997年1月31日現在）

（敬称略）

第一部門委員会

部門委員長
副部門委員長
副部門委員長

川口 憲一	国際電信電話（株）
庄司 滋彦	日本電信電話（株）
林 和行	（株）日立製作所
橘 薫	第二電電（株）
稲葉 安男	東京通信ネットワーク（株）
菌田 宏	沖電気工業（株）
山口 健二	日本電気（株）
益田 淳	国際電信電話（株）
中尾 康二	国際電信電話（株）
星野 隆資	日本電信電話（株）
北見 憲一	日本電信電話（株）
松下 正彦	日本電信電話（株）
大西 邦弘	日本電信電話（株）
岡田 忠信	日本電信電話（株）
関口 幹夫	日本無線（株）
遠藤 一美	富士通（株）
久保 征英	富士通（株）
伊藤 修治	三菱電機（株）
中島 昭久	N T T 移動通信網（株）

(敬称略)

第一部門委員会 第一専門委員会

専門委員長 遠藤 一美
副専門委員長 中尾 康二
副専門委員長 大西 邦弘
泊 哲郎
松本 弘行
竹原 啓五
佐口 雅広
幕田 和彦
浅野 正訓
吉村 隆之
大羽 巧
大貫 雅史
宮北 弘
竹内 和之
堀 智尚
岡坂 定篤
懸樋 恒久
近 義起
渡邊 恭行
山田 博
後藤 雅徳
田村 慶章
岩本 真人
山口 健二
境 穰
上岡 貞雄
岡崎 稔
新保 勲
坪井 洋治
大塚 晃
住田 正臣
浜田 啓嗣
横田 孝弘
小森 秀夫

特別専門委員会
T T C 専務局

富士通 (株)
国際電信電話 (株)
日本電信電話 (株)
国際デジタル通信 (株)
国際電信電話 (株)
第二電電 (株)
東京通信ネットワーク (株)
日本高速通信 (株)
日本国際通信 (株)
日本テレコム (株)
日本電信電話 (株)
N T T 移動通信網 (株)
(株) 東京デジタルホン
(株) 四国情報通信ネットワーク
中部テレコミュニケーションズ (株)
日本移動通信 (株)
大阪メディアポート (株)
D D I 東京ポケット電話 (株)
(株) アステル東京
(株) インテック
沖電気工業 (株)
(株) 東芝
日本デジタルイクイップメント (株)
日本電気 (株)
日本無線 (株)
日本モトローラ (株)
ナサンテレコムジャパン (株)
(株) 日立製作所
富士通 (株)
三菱電機 (株)
日本エリクソン (株)
日本情報通信コンサルティング (株)
日本高速通信 (株)

(J T - Q 7 7 2 検討グループ)

リーダー	竹原 啓五	第二電電 (株)
特別専門委員	藤田 増之	国際電信電話 (株)
特別専門委員	大山 重樹	第二電電 (株)
特別専門委員	横田 孝弘	日本高速通信 (株)
特別専門委員	宮脇 亨一	日本テレコム (株)
特別専門委員	尾岸 久隆	日本電信電話 (株)
特別専門委員	内山 靖之	N T T 移動通信網 (株)
特別専門委員	佐藤 正昭	(株) 東京デジタルホン
委員	山田 博	(株) インテック
特別専門委員	斉藤 雅泰	沖電気工業 (株)
特別専門委員	入野 紀昭	日本デジタルイクイップメント (株)
委員	山口 健二	日本電気 (株)
委員	境 穰	日本無線 (株)
委員	新保 勲	(株) 日立製作所
特別専門委員	中園 剛	富士通 (株)
委員	大塚 晃	三菱電機 (株)